

【概要】

1月25日（木）

- ・午後7時6分 パトロール中の当社社員が、建屋内R O循環設備B系からR O膜などの目詰まりを抑制するために使用する薬剤（次亜塩素酸ソーダ）と思われる液体が漏えいしていることを発見。漏えいした水は堰内に留まっており、環境への影響はない。
- ・午後7時50分 次亜塩素酸ポンプ（B）出口配管接続部を増し締めし、滴下停止を確認。
- ・午後8時35分 漏えいした水のpHを確認したところ、中性（pH6～7）を示したため、その後、核種分析をした結果、セシウム134およびセシウム137が検出された。

漏えいした水が薬剤の液体であれば、強アルカリ性を示す。

- ・漏えいした水はR O処理前の水が次亜塩素酸注入ラインへ逆流して、次亜塩素酸注入ポンプ（B）出口配管接続部から漏えいしたものと推定。準備が整い次第、漏えいした水の処理を行う。

【現場状況】

- 漏えい範囲：約1.0m×1.1m×深さ1cm
- 漏えいした水の放射能分析結果は以下のとおり。

- ・セシウム134： 4.8×10^2 Bq/L
- ・セシウム137： 4.2×10^3 Bq/L
- ・全ベータ： 1.9×10^4 Bq/L

放射能濃度は、過去のR O処理前の水と同等であると確認。



敷地平面図

現場写真



撮影日：2018年1月25日

撮影者：東京電力ホールディングス株式会社